

企業理念

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

- ・ 信頼を築く
- ・ 技を磨き、伝える
- ・ 夢をいただき、挑戦する

企業行動5つの誓い

- 法令遵守 ● その行為は法律に違反していないか
- 企業倫理 ● その行為は企業理念や倫理に違反していないか
- 社会常識 ● その行為は社会の常識か
- 社会の目 ● その行為は社会の目、安心、安全にそむいていないか
- 自分の心 ● その行為は間違いないか、自分の心に問いかける

(2013年3月31日現在)

社 名 : 株式会社 NIPPO

英 文 社 名 : NIPPO CORPORATION

設 立 : 1934年(昭和9年)2月

本社所在地 : 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11
TEL 03-3563-6751(代表)

代 表 者 : 代表取締役社長 水島 和紀

資 本 金 : 15,324百万円

事 業 内 容 : 建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、
開発事業およびその他の事業

従 業 員 数 : 1,849名(男性1,764名、女性85名)

ホームページ : <http://www.nippo-c.co.jp/>

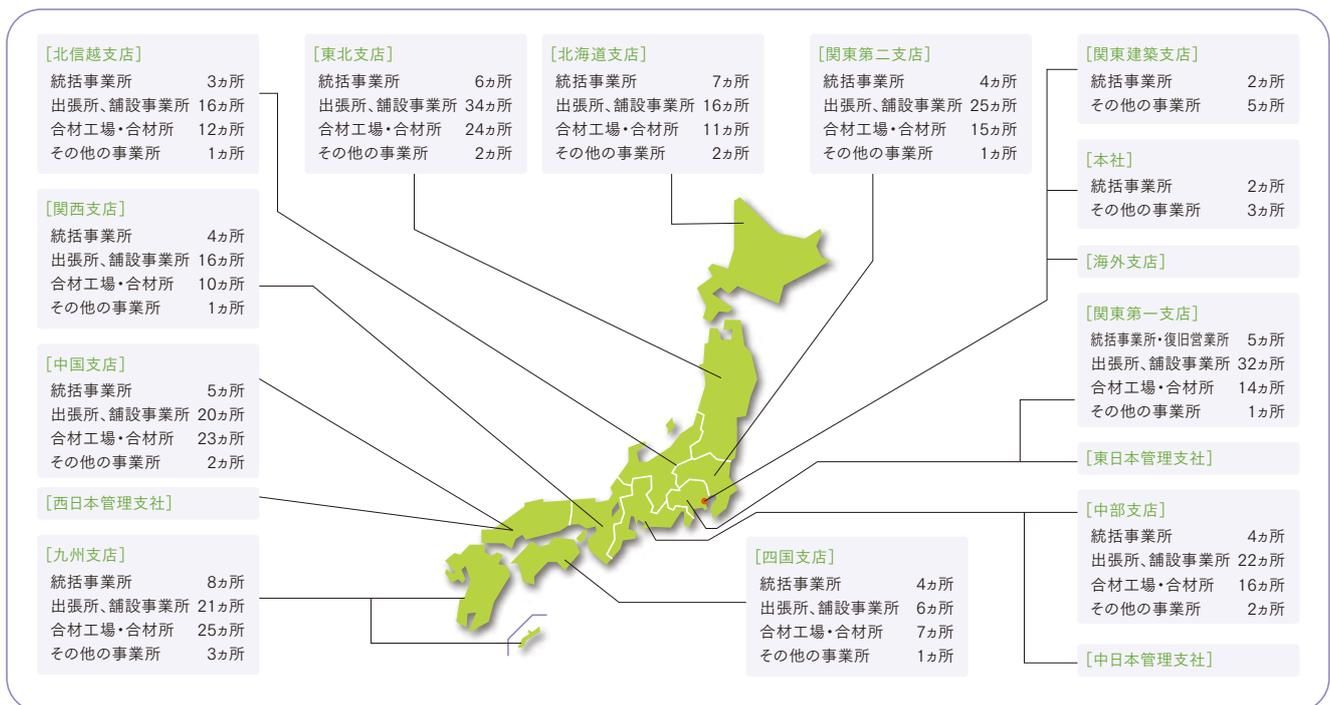
株式会社NIPPOはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・
土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材
の製造・販売を中核事業としています。

舗装・土木工事の対象は、一般道路、高速道路、レーシングコ
ース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッカ
ーグラウンド、さらには庭先舗装まで広範囲に及びます。また、製
造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、ほ
かの舗装工事業者にも販売しています。

このほか、マンション等の建築工事、戸建てをはじめとする宅
地や都市型マンションの開発事業、石油精製などのプラントエン
지니어リング事業および土壌浄化事業等の戦略事業を取り込
み、事業基盤を強化しています。

2012年4月1日をもってエネルギー事業本部の事業を会社分
割し、日陽エンジニアリング株式会社との統合新会社である「JX
エンジニアリング株式会社」へ同事業を承継しました。

● 事業所一覧 (2013年4月1日現在)



CONTENTS

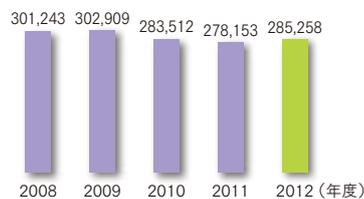
会社概要	1
トップメッセージ	3
NIPPOの事業	5
マネジメント報告	
コーポレート・ガバナンス	7
CSRマネジメント	8
コンプライアンスと品質保証体制	9
環境・安全報告	
安全管理	10
環境マネジメントシステム	11
舗装事業における環境保全活動	13
舗装事業での環境技術	15
戦略事業における環境・安全配慮	17
社会性報告	
お客様の信頼を得るために	19
従業員とのかかわり	20
社会とのコミュニケーション	21
読者の声を受けて	23
第三者意見	26

● CSR活動への取り組み

1934	日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本舗道株式会社」を設立
1993	企業行動倫理委員会設置
1994	環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置 企業理念・行動指針制定
1995	シンボルマーク改訂
1998	環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
2003	日本舗道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して 「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更 法令遵守(コンプライアンス)体制構築
2004	環境報告書創刊
2005	CSR体制構築
2006	企業理念・行動指針改訂
2007	CSRレポート創刊
2009	「株式会社NIPPO」に商号変更

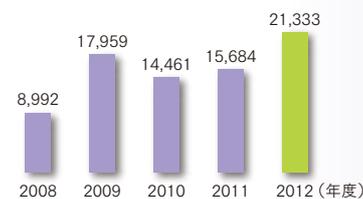
● 売上高

(百万円)



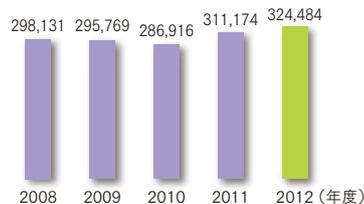
● 経常利益

(百万円)



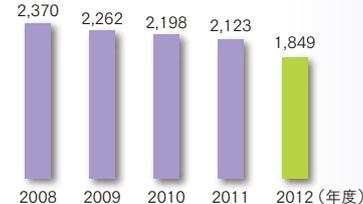
● 総資産額

(百万円)



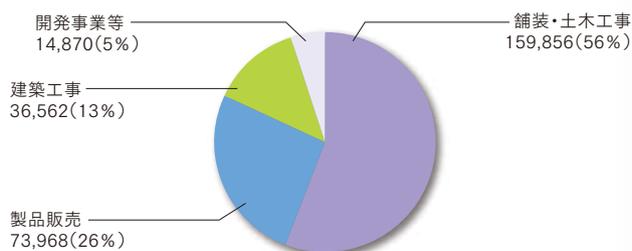
● 従業員数

(人)



● 事業分野別売上高 (2012年度)

(百万円)



▶ 編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済・環境・社会とのかかわりについて、多くの方々に知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社とかわる多くの方々とコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思えます。

▶ 対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOの本社、管理支社3カ所、支店12カ所、統括事業所・復旧営業所5カ所、現業事業所389カ所(海外を除く)。

対象期間：2012年度

(2012年4月1日から2013年3月31日)

一部には、時期を明示した上で2012年度以前の情報と2013年9月までの最新情報を掲載しています。

確かなものづくりを通して 社会からの期待に応えCSRを推進します。

株式会社 NIPPO
代表取締役社長

水島和紀

わたくしたちは、企業理念で「豊かな社会の実現」を謳っているとおり、まちとまち、暮らしと産業をつなぐ「道づくり」、人と自然にやさしい「まちづくり」を通して、持続的な社会の発展に貢献することをNIPPOの使命と考えています。現在取り組んでいる2015年度までの中期経営計画においては、CSRの目標として、「安全」と「確かなものづくり」を徹底したCSRの推進を掲げ、従業員一人ひとりがCSRを正しく理解し、自立的に実行する土壌づくりを進めています。

安全確保はCSRの根幹

2012年度は、工事現場で3人の尊い命を失う死亡災害を生らせてしまいました。「人の命を守る」安全確保は、企業が第一に果たすべき根幹の責任です。経営幹部自らが現場に足を運び、現物を確認し、現実を目で見る「三現主義」を実践し、現場で安全作業が実施されていることを確認し、指導すると同時に、死亡事故を絶対起こさないために取り決めた「安全作業4つの誓い」を再確認し、全社を挙げて再発防止と安全施工の徹底に取り組んでまいります。

- ①重機・車両後退時「誘導合図の確認」
- ②土砂崩壊「土止めの確認」
- ③転落・墜落「安全帯の確認」
- ④非定常時作業「装置停止の確認」

「死亡災害ゼロ」から「ゼロ災」までの道のりは長いように見えますが、「死亡災害ゼロ」運動を徹底してやる、このことが「ゼロ災」への近道となると考えています。

安全・安心を将来世代へ

東日本大震災から2年半が過ぎました。被災した東北地方で

はようやく復興の事業が本格化しはじめています。この間、NIPPOは救援活動や緊急復旧、さらには高速道路から生活道路にいたる道路復旧など、被災地域の支援に取り組んでまいりました。いまだ不自由な生活を強いられている皆様が、一日も早く元の生活に戻ることができるように、これからも被災地域における復興事業に全力を挙げて取り組んでいくのはもちろんのこと、ボランティア活動などあらゆる機会を通して、復興のお役に、そして社会のお役に立っていきたくと思っています。

わが国は震災のほかにも、台風による水害、地滑りなど、自然災害の危険性が高い災害大国といえます。わが国の道づくり・まちづくりは、自然と人との協調とせめぎ合いの中で研鑽されてきました。NIPPOは、防災・減災のための新たな技術開発、高い現場力、そして従業員の矜持きんじをもって、将来を担う人々の生命や暮らしを守り、地域の安全・安心を将来世代に受け渡す努力を積み重ねてまいります。

確かなものづくりの実践

「コンクリートから人へ」でスタートした前政権においては、全ての公共工事がムダであり、ばら撒きであるかの如く言われ、公共工事に携わる者にとっては、大変つらく、悲しい時代でありました。一転、新政権は「国土強靱化」、「防災・減災ニューディール」といった政策を掲げ、必要な公共工事を着実に実施することを提唱しています。しかし、国・地方の財政状況やわが国の経済状況全般を考えたとき、一時的には国内需要が膨らむことがあっても、中長期的には横這いもしくは縮小傾向との展望をもって会社経営にあたっていくことがより賢明と考えています。

縮小傾向にある国内建設市場にあっても、NIPPOが名実ともに業界トップとして将来にわたり生き残るためには、「確かなもの

のづくりを通して、品質、法令、安全、環境など、あらゆる社会的
要求に適正に応え、お客様から選ばれ続けることが不可欠で
す。「ものづくり」の原点は現場にあります。従業員一人ひとりが
現場力に磨きをかけ、「確かなものづくり」を実践してまいります。

低炭素・循環型社会の実現に向けて

NIPPOは、1950年代から「アスファルト舗装のリサイクル技
術」の研究開発に取り組み、ほぼ100%の再資源化率を誇る今
日の技術の礎を築きました。その後も鉄鋼スラグやゴミ熔融ス
ラグといった他産業副産物をアスファルト舗装材料に有効利用す
る技術など、資源循環型社会の構築に向けた技術開発を推進
しています。

国際社会において地球環境への取り組みが重みを増す中、
都市のヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」が第24回
世界道路会議でベストイノベーション賞に輝きました。このほか
にもCO₂排出量削減に有効な「中温化技術」や「低炭素ポリ
シール」の適用拡大をはかるなど、低炭素社会の実現に向けて、
幅広い視点から技術貢献を果たしていきます。

積極的な社会貢献と情報発信

全国に展開する事業所ネットワークを活用し、自然災害に対
する復旧活動をはじめ、地域に密着した清掃活動や交通安全
活動に取り組んでいます。2012年度は、学習まんが「道づくりの
ひみつ」の出版・寄贈、JXグループの「童話の花束」への協力、
小学校のグラウンド整地、除雪機械の試乗会、「世界の子どもに
ワクチンを日本委員会」への寄付など、将来世代の育成支援に
も注力してきました。

かつて建設産業は、黒部ダム・新幹線・高速道路・本四架橋
などの大規模プロジェクトが若者に大きな魅力や感動を与て
きましたが、現在はネガティブなイメージが社会に浸透し、若者
の建設産業離れも進行しています。ホームページや地域活動
を通して、建設産業の社会に果たす役割や能力を積極的に情報
発信し、社会とのコミュニケーションをより深め、建設産業に対す
るイメージの改善や正しい理解の促進にも努めてまいります。

2013年6月には、「NIPPO・CSR委員会」の実践機関であ
る7つの委員会を、コンプライアンス・人間尊重・情報管理・社会
貢献に関する「CSR第一委員会」、安全衛生に関する「CSR
第二委員会」、環境・品質保証に関する「CSR第三委員会」に
再編し、多様化・複雑化する検討課題にも迅速・的確に対処す
ることのできる体制を整えました。これからもCSR活動を積極
的に展開し、良き企業市民として、社会の期待や要請に誠実に
応え、信頼の絆を深めてまいります。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会のさまざまな場面で当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、豊かな社会の実現を目指しています。

土壌浄化事業

事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理伝票購入費の一部は、土壌汚染対策助成金に使われています。

舗装・土木事業
スポーツ施設

舗装・土木事業
高速道路

建築事業

建築分野のエキスパート集団を軸に、民間・官庁工事の実績を積み重ねることで技術の蓄積を行い、着実にお客様の信頼を築きつつ、事業を発展させてきました。さらに、環境負荷低減に配慮した取り組みを充実させ、地域に合った夢のある快適な空間を提供し続けます。

製品製造・販売事業



京都合材工場



全天候型・高耐久型道路補修材
レミアルトST

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネ機器の導入等によるCO₂排出削減に取り組んでいます。

開発(不動産)事業

デベロッパーとして、宅地建物分譲事業、マンション分譲事業「Le Cinq」シリーズ、オリジナル住宅事業「GRATIAE」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズなどを全国で展開し、環境と安全に配慮した街づくりに取り組んでいます。

海外事業

アジアやヨーロッパなどで現地ニーズに合った道路や空港、テストコースづくりを行ってきました。また、近年では日本の政府開発援助(ODA)事業として中央アジアやアフリカなど3カ国で道路整備事業などを施工、発展途上国でのインフラ整備に貢献しています。

舗装・土木事業
空港

舗装・土木事業
一般道路

舗装・土木事業



大分市営陸上競技場



皇居外苑(遮熱性舗装)

1934年の創業以来「道づくり」を中心に空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年は、環境に対する国民意識の高まりを受け、「CO₂排出量を削減する低炭素舗装」や「ヒートアイランド現象を抑制する舗装」などを国内で初めて開発し、沿道環境や地域環境の保全にも注力しています。